



市川市青少年代表団樂山市派遣



交流会 樂山第一中学校にて

6年ぶりとなる市川市からの青少年代表団が樂山市へ派遣されました。

8月17日から23日までの7日間、中国四川省の成都市、樂山市を訪れ、樂山市ではホームステイをしながら博物館などの施設・景勝地視察、学校での交流、日本文化紹介など充実した時間を過ごしました。今回派遣されたのは8名の高校生と2名の引率者です。(次頁参照)

もくじ

- P2… 市川青少年代表団樂山市訪問を振り返る
- P3… 市川青少年代表団樂山市訪問を振り返る
- P4… 市川青少年代表団樂山市訪問を振り返る
- P5… イベント活動報告
- P6… 「日本語ボランティア養成講座」と地域日本語教室、通訳翻訳事業のまとめ
- P7… 通訳翻訳事業のまとめ、IIA講演会異文化研究シリーズ
- P8… 新入会員への説明会を実施、新入会員氏名、在住外国人登録者数

編集・発行：市川市国際交流協会広報
発行責任者：高梨治夫

〒272-0021

市川市八幡 2-4-8 3F

電話： 047 (332) 0100

ファックス：047 (332) 0101

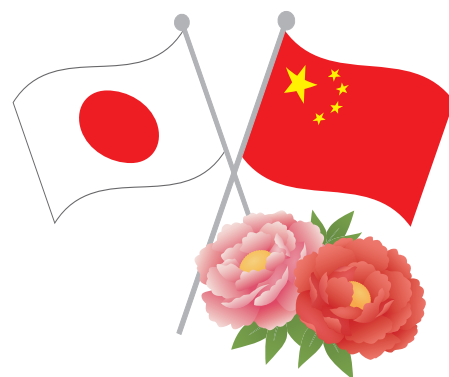
URL: <https://iia22.jp>

eメール: infoiia21@gmail.com

市川市青少年代表団樂山市訪問を振り返る

この夏、私は市川市青少年代表団の一員として、引率者の立場で自分の故郷である樂山市を訪れる機会をいただきました。子どもの頃から両市の交流に参加してきましたが、今回は初めて「見守る側」として一週間を共にしました。かつては純粋に交流を楽しむ立場でしたが、今回は全体を支える役割を担うことで、同じ交流でもまったく違った景色が広がって見えました。

成都の天府空港に到着した初日、「自分はみんなの力になれるのだろうか」と胸に大きな期待と同時に不安もありました。けれども翌朝、パンダ基地で笑顔を見せる学生たちの姿を見て、その不安は自然と薄れていきました。異国での新しい発見に目を輝かせる学生たちを見て、「この子たちにとって一生の思い出になる時間が始まったのだ」と実感しました。



四川省では料理にもパンダが出現



樂山大仏を背に



根書博物館で漢字の勉強



藍染体験(樂山第一中学校)



中国琵琶

交流の一場面一場面が、今も鮮やかに頭に刻まれています。

根書博物館では、学生たちがスクリーンに映し出された漢字を指でなぞったり、みんなで協力して一つの漢字を完成させるゲームに挑戦しました。見事成功した時の

歓声は、まさに達成の喜びそのものでした。日本と中国、同じ漢字文化を共有する者同士だからこそ味わえた、不思議で充実した時間でした。

樂山第一中学校と馬辺中学校で、樂山の学生と肩を並べて歌を歌い、民族衣裳をまとい一緒に踊りました。音楽や踊りの力は国境を軽々と越えて、ただ「楽しい」という気持ちを共有させてくれました。その時の学生たちの笑顔は、今でも鮮やかに心に焼き付いています。

峨眉山での出来事も忘れられません。中日友好詩碑亭の案内看板に刻まれた「日」の文字が削られているのを見て、日本の学生たちは一瞬立ち尽くしました。そして、一人の学生が躊躇い^{ためら}そうな口調で私に尋ねました。「中国人の反日感情について、どう思いますか?」と胸が締め付けられるような問いでした。直前まで日本人学生と中国人学生が日本語の勉強や花火大会の

話題で盛り上がっていた矢先のことだったからです。

私は同行した中国人実習生と共に自分たちが育った環境や歴史教育の背景をできるだけ丁寧に伝えました。その上で、「歴史は忘れてはいけませんが、憎しみを未来に持ち越してはならない。私たちは前を向いて歩いていかなければならない」と答えました。交流が「楽しかった」「美味しかった」という思い出だけ

で終わってしまうなら、それは表面的な体験だと思います。それより大切なのは、心の奥にある疑問や不安を正直に言葉にし、そして相手の話に真剣に耳を傾けることなのです。敏感な話題に互いが率直に向き合ったその瞬間、それは決して「対立」ではなく、むしろ深い理解へと近づくための第一歩であると強く感じました。



いぞく
学生が彝族の歌と踊りで歓迎



いぞく
彝族の伝統刺繍を体験



いぞく
彝族の銀飾り工房にて



樂山市街



樂山第一中学校校門前



最終日、樂山第一中学校校門の前で抱き合いながら涙を流す学生たちの姿を見たとき、この一週間がどれほど濃密で意味のある時間だったかを改めて実感しました。ホストファミリーへの手紙は一人ひとりがこの体験を胸に刻んで帰ろうとしているのが生き生きと伝わってきました。別れを惜しむ涙は悲しみではなく、心と心が結ばれた証です。その光景を目にして、「交流とはここまで人を変える力を持つのか」と胸が熱くなりました。

振り返れば、今回の交流は、単なる訪問や観光ではありませんでした。国際情勢が揺れ動き、互いに不信や摩擦が見える今だからこそ、未来を担う青少年が直接出会い、相手の生活環境や教育背景を知り、相違点を理解し、心がぶつかり合う

ことに大きな意味があるのです。私は今回、「参加者」から「見守る者」へと立場を変えたことで、青少年交流の真の価値を見出しました。友情や異文化理解は決して大きな舞台からではなく、このような小さな一週間の積み重ねの中にこそ宿るのだと確信しました。

この文章を書くことで、これまで参加してきた両市交流の思い出が、映画のシーンのように次々と頭に浮かんでいきます。参加する人は変わっていても、両市の友好関係の深化はずっと変わることなく受け継がれてほしいと思います。私も次世代がまた新しい物語を紡いでいくことを楽しみにしながら、今回の体験を大事にし、今後自分の成長に繋げていきたいです。

二年ごとに行われる青少年相互

訪問活動は、今回で一つの節目を迎えました。最後に、この経験を与えてくださった市川市国際交流協会の皆さま、両市の国際交流課の皆さま、温かく子どもたちを送り出してくださった保護者の皆さま、同行して頂いた市川市職員の早坂さんに、心から感謝申し上げます。

そして何よりも、この一週間を共にし、心を込めて交流に取り組んだ学生たちにありがとう伝えたいです。みんなの笑顔や涙は、私にとって何よりの宝物となりました。

来日方長 我们下次再见

これから先はまだ長いです。
また次回、お会いしましょう。

2025年9月9日（王 霽月）



ホストファミリーと対面

派遣生

石田 葉茄（いしだ かな）	昭和学院秀英高等学校 2年
河野 みなみ（こうの みなみ）	市川学園市川高等学校 2年
佐竹 志音（さたけ しおん）	船橋東高等学校 2年
佐藤 咲良（さとう さくら）	昭和学院秀英高等学校 1年
志村 遥（しむら はるか）	昭和学院高等学校 1年
高橋 碧衣（たかはし あおい）	薬園台高等学校 1年
徳茂 あゆ（とくも あゆ）	関東第一高等学校 2年
橋詰 彩花（はしづめ さやか）	淑徳高等学校 2年

引率者

早坂 諒（はやさかりょう）	市国際交流課
王 霽月（おう さいげつ）	IIA 会員

イベント活動報告

2025年市川市公式団・市民団ローゼンハイム市訪問

(IIA自主事業)

8月下旬から田中甲市長と一緒に、市民団の一員としてパートナー市ローゼンハイムを訪問しました。4日間にわたる公式日程を通して、メルツ市長とローゼンハイム市民の皆さまから本当に心温まる歓迎をして頂き、両市の20年におよぶパートナー市交流の歴史の重みを強く感じました。特に印象に残った点を三点お伝えします。

まず初めに、市民総出で歓迎をして頂いたことです。「Ichikawaが来る!」ということは広く市民に浸透していたようで、歓迎式典が行われる市庁舎に向かうと玄関前には百人を超える一般市民の方々が待ち構えており、大きな拍手で我々を迎えて下さいました。また市民が毎年心待ちにしている秋祭りに参加した際には、市川市民団は開会パレードの先頭として和装で町の中心を練り歩かせてもらいましたが、沿道を埋め尽くした

市民から大きな歓声を頂き、町中の人にいっぺんにご挨拶ができた気持ちになりました。

二点目は、この地方で大切に守られてきたバイエルンの文化を伝えたいという思いです。多くの場面で伝統衣装と音楽で迎えて頂きましたが、極め付きは、両市交歓食事が催された山の中腹にあるレストラン。大人から子供まで数十名の市民たちが伝統衣装を着て参加してくれて、バイエルンの音楽とともに、アルプスに近いこの地方らしい大きな丸太を使ったパフォーマンスを見せてくれました。最後は、美味しいドイツビールをたらふく飲んだ市民団も輪に加わり、バイエルンの踊りを夜遅くまで踊りました。

三点目は、ローゼンハイムがとても美しい街だということです。中世の面影を残す建物群や教会、山と湖に囲まれた豊かな自然、その中で育まれてきた文化に誇りを持つ心優

しい市民たち。目に触れるものの美しさや接した方々の心根の優しさを感じる度に、市川市が素晴らしい市とパートナーであることを嬉しく思いました。こうしたご縁を築かれたIIAの先輩たちに感謝しつつ、微力ながら自分もバトンを引き継いで参ります。(関口 研二)



羽田出発の市民団全員
(+ 田中市長ご夫妻、大久保議長)



パレード



山のレストラン

こどもインターナショナルディ

(市民交流部会)

「IIAこども日本語教室」と「世界の子供の土曜教室」で学ぶ児童生徒を主な対象とした交流イベント。

今回は企画運営に加わった実行委員長の福島さんを含む3名の高校生と中学生1名が寄稿してくれました。

8月30日、国際交流ラウンジにて「こどもインターナショナルディ」を開催しました。近年、市川市でも多様な文化的背景を持つ子どもたちが増え様々な悩みを抱える姿が見られます。その不安を和らげたいと思い企画しました。当日は、中国の投壺(トウコ)や毬子(ジェンズ)、ペルーのフェゴ・デル・サポ、日本の市川カルタやコップタワーなど、合計5種類の遊びを用

意しました。投壺は、矢を投げてカゴに入った数を競う遊びです。フェゴ・デル・サポは、おはじきを投げて点数を競い、ジェンズは、羽蹴りです。日本・スリランカ・中国などの子供約20名が午前と午後の2部に分かれて参加し、交流を深めました。特に、コップタワーが積み重なるごとに歓声が上がリ、市川カルタでは日本語学習を始めたばかりの子どもが熱心に札を探す様子が印象的でした。子どもや保護者の皆さまからも喜びの声をいただき、日本語に触れながら交流できる場の大切さを改めて実感しました。多くの方に支えられ、無事に開催できたことに感謝しています。今後も子どもたちが「楽しい」と感じ



午前の部「IIA こども日本語教室」



午後の部「世界の子供土曜教室」

れる交流の場を
続けていきたい
と考えています。
(福島 千夏)



今回のイベントは、6月から実行委員会の皆さん含め多くの方々と準備を進めて、イラストや、やさしい日本語で子供達に分かりやすく工夫しました。他のメンバーからもこのような感想がありました。

・遊びを通じて様々な国の子どもたちと楽しい時間を過ごすことができ、今後も積極的に国際交流の機会に参加して自身の成長につなげていきたいです。(山岸 遼大)

・初めての参加だったので戸惑うこともありましたが、異なる国の子供たちと遊ぶ中で、文化の違いを楽しみながら理解する大切さを学びました。今後も自身の国際的な考えを発展させ続け、自分の視野を広げたいです。(塚本 夏末)

・初めて国際交流の場で異文化の理解に対して考えるきっかけになり、自分の成長に繋がれたと感じました。このような貴重な機会を今後に活かしていきたいです。(廣居 健太郎)

「日本語ボランティア養成講座」と地域日本語教室 (日本語教室部会)

市川市が主催する「日本語ボランティア養成講座」は、地域日本語教室で日本語を教えるために必要な基礎的知識や技能を学ぶ講座です。2017年以降、コロナ禍の3年間の中断を除いて毎年開催されており、講師はAJALT（国際日本語普及協会）から招いています。今年度は10月から翌3月まで、2時間×13回の講座が全日警ホールで開催されます。

「地域日本語教室」は地域のボランティア団体等が運営する日本語教室です。留学生等が通う日本語学校とは異なり、日常生活に必要な日本語の学習を支援しています。市川市の外国籍市民は今や2万3千人を超え、市人口の4.7%を占めています。市内の地域日本語教室で日本語を学ぶ人々も増えています。市川市内の地域日本語教室はIIAホームページの「日本語教室リスト」をご参照ください。リス

トには16団体の20教室が掲載されており、合わせておよそ150人のボランティアが250人余りの学習者を支援しています。各教室の運営方針や学習支援方法はそれぞれ異っており、そのような多様性が市川市の日本語教室の特色となっています。教室の中には、外国出身の小中学生のための日本語教室もあります。この他に教育委員会

が小学校で開催する、不特定の就学前日本語指導教室があります。指導教室では、これから小中学校に編入する外国籍の児童生徒に集中日本語指導を行っており、地域日本語教室のボランティアが講師として参加しています。

IIAはこれらの活動に関わり、外国出身市民の日本語学習を支援しています。（金子 隆一）



通訳・翻訳業務のまとめ (通訳・翻訳部会)

私たちは、市川市や市内在住外国人から依頼された通訳・翻訳を行っています。また、スキルアップのため英語、中国語、ドイツ語、スペイン語グループは定期的に勉強会を行っています。（水井 礼子）

2025年6月～8月の活動実績

内 容			依頼元（国籍）
通 訳	日⇄英	入学手続きのための面談の通訳 入学先候補学校の見学同行	市内在住外国人 (スーダン、インドネシア、 バングラデシュ、中国)
	日⇄中	小学生児童の心理検査の通訳	
翻 訳	日→中	青少年代表団楽山市派遣関連 高校生8名のプロフィール翻訳 楽山市長への親書翻訳	国際交流課
	日→英 日→中 日→ネパール 日→ベトナム	納税督促文の翻訳	納税債権管理課
	日⇄英	戸籍謄本、離婚受理証明書、独身証明、 結婚証明書、出生証明書、宣誓供述書	市内在住外国人 (インド、フィンランド)

通訳・翻訳部会全体会(2025)に参加して

8月24日、IIAの通訳・翻訳部会全体会。最初に水井礼子さんが「2024年度事業報告と2025年度事業計画」を発表しました。

当日はとても暑かったですが、40名が参加しました。まず、新しい参加者の自己紹介から始まり、名前と所属する言語グループを言いました。月1回集まる主な言語は4つあり、英語、中国語、ドイツ語、スペイン語です。各言語のグループリーダーは、グループが行っている活動について報告しました。私の母国語は英語で、私はそのグループの一員です。すべてのグループにネイティブスピーカーがいるわけではないことがわかりました。ア

ウトリーチプログラム(注*参照)を実施すれば、市川市で話されている全ての言語のネイティブスピーカーをもっと集められるのか、考えさせられました。

この会議でお招きした講演者はネパール人のスベディ・クル・プラサドさんでした。2014年、日本語留学生として来日した自身の経験を話されました。そして2016年、日本の大学に通い始め、2020年に卒業すると、日本で自身のビジネスを始めました。千葉市のウェブサイト日本語からネパール語へ翻訳する支援仕事をしたとのこと。また、海外在住ネパール人協会千葉支部(NRNA CHIBA)にも

所属しており、公立学校に通うネパール系およびインド系の子供たちへの支援も提供しています。その後の質疑応答では、参加者全員がプラサドさんの人生と仕事に関心を持っていることがわかりました。

この会議は非常に有益だと思いました。企画・運営にご尽力された皆様に感謝申し上げます。

(ウェザリー キンバリー)

Weatherly Kimberly)

*注: ここでいうアウトリーチプログラムとは、IIA通訳翻訳部会の存在とそれが市内在住外国人ネイティブの参加を歓迎していることを能動的に知らせるような活動の概念で、特に既存のプログラムを指すものではありません。



IIA 講演会異文化研究シリーズ (IIA 自主事業)

第15回 「戦前の日本人の中国観」

講演の粗筋は、概ね次のようなものでした。日本は、長い歴史を通じて、中国から多様な文化を移入してきました。なぜなら中国は、長い間日本にとって文化的先進国であったからです。日本は、明治維新により、アジアでいち早く近代化を成し遂げた後、中国を低く評価するようになり、日清戦争の勝利以降、本格的に大陸へ侵攻することとなりました。日本の軍部たちは、それぞれの立場から帝国主義的対中思考を展開しました。満州へ侵攻した日本軍は次第に疲弊していき、遂に敗北を喫するので。軍部の帝国主義的対中思考の分析を通じて、講師の緻密な研究成果を散見できる講演でした。

新谷講師は、かつて日本軍を率いた幹部の一人池田純久の著作「日本の曲がり角」を読んで池田を研究し、池田が大陸を侵略したス

テレオタイプな軍人たちのイメージを再考させる人物と観ていました。その後、自著「戦後の近衛上奏文」(初版)の中で池田に言及したところ、池田の実娘池田知加恵氏から偶然にも連絡を受けて面談することとなり、池田に関する資料の提供を受けて、知加恵氏と共に「池田純久と日中戦争」(彩流社2024)を著すこととなったのです。

講師は、講演会を改めて日中関係を見直すよい機会と目論んでいたように思えます。現況の日中関係は、政治的には好ましいものではないですが、特に日本が中国を侵略した日中戦争当時、日本人がどのように中国や中国人を認識していたかを知り、その上で改めて日本の大陸進出を考えることを講演のテーマとしたのでした。

(邊牟木 廣海/異文化研究会代表)

- 開催日 6月21日
- 参加者 会場16名 + オンライン4名
- 開催場所 国際交流ラウンジ + オンライン
- 講師 新谷 卓氏
(立教大学・宇都宮共和大学講師)



新入会員への説明会を実施

7月19日国際交流ラウンジで、新入会員への「協会活動の説明会」を行い、6名の参加がありました。

最初の30分、下記の二つの面から活動を説明しました。

1. 世界の色々な所で、国家間の関係が不穏な空気を帯びてきた中、市民間の信頼は失わないための都市交流
2. 急速に増加しつつある市川在住の外国人が、市川を好きになり、充実した生活を送れるよう支援する、市民交流、日本語教室、通訳翻訳活動です。

その後、30分の質疑応答を行いました。皆さんの質問が真剣で、実際に自分が活動するために具体的にどう動くべきかという前向きな内容で、説明者としても大変気持ちのいい、説明しがいのあるものでした。

主な質疑応答は下記のようなものでした。

- ・日本語講師は文化庁認定のコースを受けている場合、市川市の

日本語ボランティア養成講座を受講しなくてもボランティア講師はできるか？

→十分です。そういう講習を受けるチャンスが無い人は市川市の講習を受けて欲しい。10月～2月くらいの実施になります。

- ・その講習を受けた上で、講師を希望すれば良いのか？

→その前に見学はしておいた方が良いでしょう。教室によって、色々な運営の仕方があるからです。

(※日本語教室について質問が多かったので、教室一覧を配布)

- ・市民トークは定員があるのか？

→定員以上に参加があることはめったにないから、まず参加して戴きたいと思います。

- ・在住外国人で核になっている人がいるが、そのような人へのアプローチはしているか。

→個別のアプローチは簡単ではないが、そういう人が市民トークに参加してくれたらありがたいと思います。

- ・ガーデナ市とコンタクトを取りたいのだが、どういうルートがいいだろうか？

→協会のカウンターパートになっている人の紹介は可能です。

- ・バディーズにも興味がある。→紹介はできます。

なお、都市交流・市民交流で活動している江口さんが自主的に手伝ってくれました。また同席していた、逸見会長、山本運営委員からは、「とにかく何かをやってみるのが大事」というアドバイスも貰いました。

以上のような内容でしたが、充実した質疑もあり、この説明会をやって良かったと思いました。今後も定期的にやって行きたいと考えています。(西依 章郎)



新入会員氏名（2025年6月～2025年8月）

氏名(敬称略)、フリガナ、

参加を希望する部会（部会等の略号／都：都市交流、市：市民交流、日：日本語教室、通：通訳翻訳）

山田 弓（ヤマダ ユミ）市

熱海 晴子（アツミ ハルコ）日・通（英語）

Achini Weeraseskara（アチニ ウェーラセーカラ）

日・通（英語・シンハラ語・日本語）

佐藤 咲良（サトウ サクラ）都

高橋 碧衣（タカハシ アオイ）都

河野 ななみ（コウノ ナナミ）都

丸谷 美紀（マルタニ ミキ）通（英語）

塚本 由美子（ツカモト ユミコ）市

塚本 夏未（ツカモト ナツミ）都・市

石井 香織（イシイ カオリ）都

石田 葉茄（イシダ カンナ）市・通

志村 遥（シムラ ハルカ）都

佐竹 志音（サタケ シオン）都

徳茂 あゆ（トクモ アユ）都・市

橋詰 彩花（ハシヅメ サヤカ）都

五十川 淳哉（イソカワ ジュンヤ）市・通（英語）

五十川 香璃（イソカワ カオリ）市・日・通（英語）

Harris Mia Mae（ハリス ミヤ メイ）都・市

市川市在住外国人登録者数及び上位10か国の人数 2025年8月31日現在（ ）内は昨年同月数

① 中国 7,059 (6,692)	② ネパール 3,223 (2,338)	③ ベトナム 2,858 (2,435)	④ フィリピン 1,788 (1,700)	⑤ 韓国 1,383 (1,374)
⑥ ミャンマー 1,378 (929)	⑦ スリランカ 823 (680)	⑧ インド 791 (705)	⑨ インドネシア 739 (544)	⑩ タイ 533 (519)

総数115か国23,838人(116か国20,968人) 市川市総人口 497,750人(494,673人)(市川市総人口は2025年及び2024年8月31日現在)

(1～4 ページ) 市川市の 高校生が 中国の 樂山市に 行きました

(8月17日から 1週間 市川市の 高校生 8人が 中国の 樂山市に 行きました。
た。 いっしょに 行った 中国出身の 王さんの 報告です。)

高校生たちは 樂山では 市民の 家庭に 泊まりました(ホームステイ)。そして 博物館や 有名な 山に 行きました。樂山の 学校では 中国の 学生と いっしょに 楽しく 歌って 踊りました。中国と 日本の 不幸な 歴史についても 話すことが ありました。(王さんは)「歴史を 忘れては いけない。でも ずっと 憎んでも いけない。私たちは 前を 向いて 歩かなければ いけない」と 日本の 高校生に 話しました。疑問や 不安に 思うことを 話して 相手の 話を よく 聴くことが 大事です。そうすれば お互いに よく わかるようになります。最後の 日には 日本と 中国の 学生が いっしょになって 泣きました。友情や 異文化理解は このような 経験から 生まれます。市川の 高校生の 皆さん ありがとうございます。また 会いましょう。

(5 ページ) 市川市の 市民が ドイツの ローゼンハイム市に 行きました

8月に 市川の 市民が ドイツの ローゼンハイム市に 行きました。ローゼンハイムでは 秋の お祭りに 日本の 着物を 着て 参加しました。ローゼンハイムの 市民と いっしょに レストランで おいしい ビールを 飲んだり 踊ったりしました。ローゼンハイムは とても きれいな 町でした。そして 市民の 人たちは みんな 優しかったです。

(5 ページ)「こどもインターナショナルディ」— こどもたちが 集まりました

8月30日に 日本 スリランカ 中国などの 国の こどもたちが 20人ぐらい 国際交流ラウンジに 集まりました。 こどもたちは 土曜日の 二つの こども 日本語教室で 日本語を 勉強しています。 みんなで いろいろな 国の 遊び をして 楽しみました。

(6 ページ) 市川市の 日本語教室で 日本語を 勉強する 人が 増えています

市川市には 20の 日本語教室が あります。 外国から 来て 市川に 住んでいる 人たちが 日本語を 勉強しています。 IIA の ホームページで 日本語教室の リストを 見る ことができます。 日本語を 勉強したい 人は リストを 見て 自分の 家の 近くにある 日本語教室を 探してください。

(7 ページ) ネパールから 来た スベディさんの お話を 聞きました

通訳(interpretation)や 翻訳(translation)をして 外国人を 手伝っている IIA の人たちが 8月24日に 集まりました。 この 集まりで スベディ・クル・プラサドさんが お話をしました。 スベディさんは 海外在住 ネパール人協会千葉支部 (NRNA CHIBA) の 会長です。 スベディさんは 2014年に 留学生として 日本に 来てから ビジネスを はじめたことや 市川に 住む ネパールの 人たちの ことなどを 話しました。 ネパールの 人たちが どのように 日本で 生活しているのか よくわかりました。

(8 ページ) 外国から 来て 市川市に 住んでいる 人が 増えました

外国から 来て 市川市に 住んでいる 人が 今 23,838 人 います。 市川市に 住んでいる 人の 4.8 % が 外国から 来た 人たちです。 ***